

いたや貝 ほん貝 みなし貝 いそ貝 みそ貝 江のよどにふれにだいにひる人もなし やく貝
 すはう貝 しほ貝 くしかひと云貝もあれどそれは別の物也歌をしりあつむるに貝也しほふ
べしと うつせ貝 身もなき也いづれのうつせかひとも云りいろ貝こやす貝ふ
 とくろ貝 ふと云々仍私に云くと同事也しから魃ふとくるかひと云はおほいかひの事か
 らす貝 すゝめ貝 すだれ貝 うらうつ貝 たうらうはつかあひをひるひをかき分 きすかくひ
ひの名也かくとはすなごをかきすかひありと云々藏玉にありしほ 浪間かしは か岩とかきこは云
日がなみまかしはをとるほどに いもせ貝 ひろふ 螺をさたへと云 さかいと つくえの島
 のしたゝみ 貝しげみ 浦多也と云見の 浪うちよせてける忘貝 つくえの島の小螺 櫻かひよ
 るみしま江のうら 時うつりしてふく螺 時つぐか かひありなきみながみ袖におほはれて
めせよ

〔貝盡浦之錦〕下前歌仙三十六首和歌

簾介 左一

山家集 波かくる吹上の濱のすだれ貝風もぞおろすいそぎ拾はむ

忘介 右一

後拾遺 松山のまつが浦かせふきよせばひろひて忍べ戀わすれ貝

梅花介 左二

春風に波やおりけんみちのくの籬が島のむめのはながひ

櫻貝 右二

夫木西行 春たてばかすみのうらのあま人はまづひろふらんさくら貝をや

片貝 左三